



表彰②・奨励表彰の様子



表彰⑩・感謝状贈呈の様子



新野市議会議長挨拶



宮本市長式辞

市制施行50周年記念式典・記念講演を開催しました

8 月1日に市制施行50周年を祝い、記念式典と記念講演を開催いたしました。式典ではこれまで市の発展に尽力いただいた98人29団体の皆さまに感謝状を贈呈するとともに、これからの50周年を見据えさらなる活躍が期待される8団体に奨励表彰を行いました。また、記念講演では茶道裏千家15代 千玄室 前家元をお招きし、現在における心の持ち方と題してご講演いただいたほか、本市出身のジャズピアニスト加藤 豊子さんによるウェルカムピアノソロや記念植樹などを行いました。今号では記念式典で市長と市議会議長が述べた式辞・挨拶を掲載します。なお、当日の様子や感謝状贈呈者、奨励表彰受賞者などは市ホームページに掲載しています。

守山市長 式辞

守山市は昨年7月に市制施行から50年を迎えることができました。残念ながら「コロナ禍の影響から、多くの記念事業を本年に一年延伸いたしました。本日ここに、50周年という千載一遇の祝典を皆さまともにお祝いすることができません。誠に感慨無量であり、皆さまに心から感謝を申し上げる次第でございます。

守山市は昭和45年7月1日に、念願でありました市制を施行いたしました。滋賀県下7番目の市制施行であり、人口35、112人での新生守山市のスタートでありました。当時、町から市への移行要件は、地方自治法で「人口5万人以上」と定められておりましたが、「三万市制」の実現を目指す全国の二十二町が「新市制実現全国期成会」を結成し、特例法の成立に向け、国会への働きかけなど、全国運動を展開いたしました。

当時の守山町長 故北川俊一氏は、登別町長さま、福生町長さまとともに、当該期成会の副会長として、全身全霊を懸けてご尽力され、また、本市の名誉市民であり、後に内閣総理大臣となられた故宇野宗佑先生のお力添え

8万5千人になりなるとするまでに成長して参りました。これは、ひとえに先人の方々をはじめ、市民の皆さまお一人おひとりが、守山のまちづくりの強い思い入れをもってご尽力を賜って頂いたお陰と存じ、深甚の敬意と感謝を表す次第でございます。

この50年の歩みを振り返り、本市の発展に大きく寄与し、「こうして今日、「住みたいまち」「住み続けたいまち」と市内外から評価をいただくまでに至りました要因は、次の3つの点が大きいものと考えております。

一つには、野洲川の大改修により災害に強い、安全で安心なまちに生まれ変わったことです。太古から先人たちは、生きるために飲む「澄んだ水」や稲を育ててくれる「豊かな水」を与えてくれる野洲川を「近江太郎」と呼び、あがめ暮らししてきました。ところが一方で、「この「近江太郎」はおおよそ10年に一度大暴れをして大水害をもたらす川でもありました。繰り返される甚大な被害に対し、地元住民の皆さんは、南流・北流の抜本的改修を願っておられましたが、当時の建設省から示された改修案は、中洲学区の真ん中を貫く形で、新放水路を造るというものでした。実に1900反の美田の提供と新庄町の住宅42戸の移転を伴う大改修案でありました。一転して地元は反対となり、長年にわたる厳しい交渉の末、市制を施行した翌年の昭和46年に工事が着手され、8年の歳月をかけ、昭和54年6月2日に新放水路に水が流れました。野洲川が100年に一度の大洪水にも耐え得る、安全で安心な川へと生まれ変わって今年で42年となります。今を生きる私たちは、その恩恵を享受する中で、安心して生活を送らせて頂いている訳ですが、その背景には、「災害の歴史を子孫に残したくない」との一心から、新放水路建設事業に同意いただいた中洲学区住民の皆さまの苦渋の決断があったことを、私たちは決して忘れてはならないと存じます。

二つには、都市基盤の整備や教育福祉の充実により住みやすい環境をしっかりと整えてきたことです。初代北川市長の「道造ってまちを創る」という理念を受け継ぎ、

もいただく中、およそ2年間におよぶ市制実現への努力は、遂に昭和45年3月、三万市制特例法の成立をもって、大きく実を結んだところでございました。登別市・福生市さまとは、市制実現という願いを同じくし、共に奮闘努力したご縁から、今日に至りますまで「四五都市連絡協議会」として友好関係を結び、子ども達のスポーツ交流や職員との相互派遣を行うなど切磋琢磨を重ねて参りました。今般、ともに市制施行50周年を迎えることができましたことは、ご同慶に堪えないところであります。今日までの両市のご支援・ご厚情に改めて厚く感謝申し上げます。

さて、私たちのまち守山は、琵琶湖と野洲川の恵みにより育まれた豊かな自然と、多くの先人が築いてこられた歴史と文化を継承しながら、「のどかな田園都市」を標榜して、都市基盤や生活環境を充実する一方、豊かな自然や田園風景をしっかりと残すことにより、都市と自然が調和し、教育・文化・医療・福祉が充実した、「住みよいまち」として発展を遂げて参りました。今日、日本全体が人口減少社会に入り、とりわけ地方において少子高齢化と人口減少が大きな課題となります中で、本市にありましては、お陰さまで毎年着実に人口が増え続け、今や

無秩序な市街地拡大による環境悪化の防止、計画的な道路河川や下水道などの公共施設整備による良好な市街地の形成、優良な農地との健全な調和などを目的として、しっかりとした都市計画のもと、市民の皆さまのご理解とご協力、また、国・県のご支援を賜ります中、積極的に都市基盤の整備を進め、良好な生活環境の維持向上に努めて参りました。また併せて、環境活動団体をはじめとする市民の皆さまのご尽力で、街なかの河川に再びホタルが舞う環境に戻ったことも、まちの魅力を大いに高めたことと存じます。

また、今日までの関係者の皆さまのご尽力の積み重ねの上に、教育・医療・福祉の充実がなされて参りました。市内には、県立守山中高と立命館守山中高の一貫校が2校あり、公立の小中学校も大変落ち着いた中での教育を展開して参ります。教育の良さが守山市のブランドの一つと言っても過言ではないと考えております。また、医療機関として、県立総合病院、小児保健医療センター、済生会守山市民病院、多くの診療所などの充実した医療環境のもとで市民の健康が守られてきたところであります。そして、現在、医師会の先生方には、新型コロナワクチン接種の集団接種および個別接種においても全面的なご協力を頂いており、お陰さまで、現段階で、12歳以上の市民の概ね半数の方が1回目のワクチン接種を終えている状況であります。

また、子育て環境につきましても、公立・民設園が連携し質の高い幼児教育・保育を提供するとともに、高齢化の進展に合わせた地域包括ケアシステムの充実、看取りを見据えた医療関係者と介護関係者の連携、きめ細やかな障害福祉サービスに取り組んでいくこととです。

そして、環境センターについてでございますが、環境センターは、地元皆さまの深いご理解とご協力のもとで、昭和60年の稼働以来今日まで、36年の長きにわたる、市民全体のごみを安定的に処理出来て参りました。



友好姉妹都市の首長によるビデオメッセージ
市制施行50周年を迎えられたことに心よりお祝い申し上げます



愛ラブ守山PR応援団によるオープニング



武村衆議院議員から祝辞を頂戴しました



三日月知事から祝辞を頂戴しました



街の移り変わりをパネルで展示



被表彰者の皆様③



被表彰者の皆様②



被表彰者の皆様①

改めて、地元の皆さまには深く感謝を申し上げる次第でございます。そして今般、引き続き同じ場所で開催センターを建設するにあたり、再び地元の皆さまには、ご心労をおかけすることとなりましたが、市民生活に欠くことができない、ごみ処理というまちづくりの大きな観点から、大変重く、かつ、苦渋のご決断を賜りました。現在、施設本体は概ね完成し、本年10月からの本格稼働に向け試運転を重ね、環境に最大限配慮した最先端の施設としてしっかりと運営して参ります。

また只今、皆さまにご唱和いただきました「環境学習都市宣言」は、今日までの琵琶湖を始めとする環境を守る市民の熱心な取り組みの上に、「環境施設を更新するにあたり、改めて、市民一人ひとりが、自分たちのごみを受け入れ、処理をして頂いている地元の皆さまに感謝の気持ちを持つた中で、市民として何が出来るか、あるいは、どうすべきかを学び考え行動しよう」とする自治連合会からの決意表明を受け、市民の皆さまの手によって定められたものでございます。この都市宣言のもとで、今日までの守山の環境保全への取り組みの歴史を次世代にしっかりと繋いでいくとともに、益々充実したものとなりますよう、市民の皆さまと共有意義な進めを進めて参ります。

4月にオープンいたしました、もりやまエコパークの交流拠点施設と新環境センターを市民の皆さまの環境学習と実践活動の拠点として、しっかりと取り組んで参ります。

3つには、全ての学区・自治会において、地域住民同士が強い絆で結ばれたなかで、まちづくり活動が積極的に展開されていることでもあります。本市の行政区域は、昭和の大合併において、旧六町村の合併により形作られましたことから、第2代市長 故高田信昭氏は、旧町村それぞれの歴史・文化は大切にしながら、全市民の心の融合を図るため、「守山は一つ」の合言葉のもとで市民との対話を重視され、各学区に公民館機能を併設した地区会館を開設されました。この地区会館には対話行政の窓

り組みが、住民相互の強い絆を育み、誰もが皆、住みよいたと思えるまちづくりに繋がっているものと存じており、こうした守山市民の皆さまの、言わば、「成熟した、良き市民性」こそ何にもまして誇るべき守山の宝であると感じます。

市制施行50周年の大きな節目を迎えるにあたり、私の脳裏に浮かんだ言葉は「温故知新」という孔子の言葉であります。この言葉のとおり、この50年を振り返り、今日の守山を築いてきていただいた先人に感謝し、そして、学ぶことで、次の50年先を見据えた守山のまちづくりに活かして参りたいと思っております。その意味で、只今のお話をさせていただきました。

そして、次の50年に向けては、今年度から新たにスタートいたします第5次総合計画後期基本計画の将来ビジョンにおいて、市民憲章の「のどかな田園都市」を基軸としたうえで、「豊かな田園都市」を目指すことをしていた

守山市議会議員 挨拶

本日ここに、守山市制施行50周年記念式典を開催するにあたり、市議会を代表いたしまして一言、ご挨拶を申し上げます。

本日は公務ご多用の中、多くのご来賓の皆さま方にご臨席を賜り、厚く御礼を申し上げます。また、長年にわたり、市勢の振興に尽力いただき、感謝状をお受けになられる皆さまには、その功績と今日までのご労苦に対しまして、心から敬意と感謝を申し上げます。

さて、本市は、昭和45年に三万人市制の特例措置で、県下7番目の市として誕生いたしました。以来、「のどかな田園都市」を基本理念として、着実に発展の一途をたどり、今日では湖南の中核都市として、昨年7月に、市制施行50周年を迎えることが出来ました。

守山市に住んでよかったと言われるよう、また、より良い環境のもとで生活することができるよう、環境施設、福祉施設、教育・文化施設、道路整備など市民生活に欠

口とすることに加え、社会教育活動の場、そしてきめ細かな社会福祉の実践の場の3つの機能を持たせたものであります。

そして、併せてさまざまな地域課題に市民自らが主体的に取り組むための実践体制として、全学区、全自治会にまちづくり推進会議なる組織を作ることを推進されました。これは、「守山ブルー計画」と銘打たれ、1つに、澄みきった守山の青空(ブルースカイ)に青少年の健全育成を託す、2つに、母なる湖(ブルーレイク)に市民の命と人権の尊重を託す、3つに、豊かな沃野(ブルーアー)に市民の知恵と実践を託す、との3つの目的を持ったものであります。この方針に基づき、すべての学区・自治会において「まちづくり推進会議」が設置され、「青少年育成部会」「人権教育部会」「市民活動部会」の3部会の組織体制が全市統一的に整うこととなり、これをもって地域のまちづくり体制、住民自治の基盤というものが整えられ、地区会館という活動拠点の整備と相まって、住民主体による地域のまちづくりが活発に展開されることとなりました。

本日、元老としてご臨席賜っております第2代市長 甲斐道清氏は「市民参加による信頼で結ばれた活気あるまちづくり」を、また、第4代市長 山田昌宏氏は「市民が主役のまちづくり」をそれぞれ施政方針の柱とされ、学区・自治会のまちづくり活動を継続的、発展的に支援されることと、市民の皆さまとの協働のまちづくりを推進されました。そうしたことで、市民の皆さまの「コミュニケーション」意識や互助・共助意識が高まる中、今日においても市内平均自治会加入率は90%以上の高水準が維持され、学区民のつどいや夏祭りなどの交流事業はもとより、子どもや高齢者の見守り活動、子育て支援や高齢者の居場所づくり、琵琶湖や道路河川の環境保全活動、防犯や防災活動と要支援者の支援など多様な取り組みが、学区や自治会において住民主体で活発に展開されていることは、皆さまご案内のとおりでございます。地域住民の皆さまによる、互いを思いやる心に溢れた、地域のまちづくりの取

りだきました。市民一人ひとりの心身の「豊かさ」、また、これまで先人の方々が築き上げてきた自然環境や教育文化などの「豊かさ」をさらに追求し、すべての市民が守山に誇りと愛着を持つことが出来る「豊かな田園都市」を創って参りたいと考えております。今年度は、市民の皆さまと、また、学区・自治会はもとより、企業や各種団体の皆様も含め、全ての方々と心を一つにして、「豊かな田園都市」に向かって新しい一歩を共に歩みます。そんなスタートの年として参りたいと存じます。皆さま方から、更なるお力添えを賜ることが出来ますれば、大変心強く、また有難く存じます。何とぞよろしくお願い申し上げます。

結びにあたり、本日はご臨席を賜りました皆さまのご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げます。市制施行50周年記念式典の式辞と致します。

くこのできない都市基盤を充実させてこられたもの、ひとえに市民の皆さまの深いご理解とご協力ならびに関係各位のご支援の賜物と感謝申し上げます。さらに、世紀の大事業である野洲川改修事業により、災害に強い安心・安全なまち守山の礎が築かれたものであり、先人の皆さまのまちづくりへの取り組みに深甚の敬意を表するものであります。

一方で、今日の市政を取り巻く社会経済情勢は、コロナ禍の影響をはじめ、なお厳しいものがあります。市議会といたしましても、市民の皆さまの負託にこたえられず、通年議会を実施しており、コロナ禍への対応にも迅速に取り組んで参りました。今後も安全・安心で住みよいまち守山市の発展に寄与することができるよう、行政と一丸となって、全力で取り組んでまいります所存でございます。

最後になりましたが、ご来賓ならびに市民の皆さまのご健勝、ご多幸および守山市のさらなる発展をご祈念申し上げます。ご挨拶と致します。



記念植樹の様子



茶道裏千家15代 千 女室 前家元による講演②



茶道裏千家15代 千 女室 前家元による講演①



加藤 景子さんによるウエルカム ピアノ ソロ